



青森県生物多様性戦略  
「選ばれる青森」への挑戦  
2019-2023

# 青森県の希少な野生生物

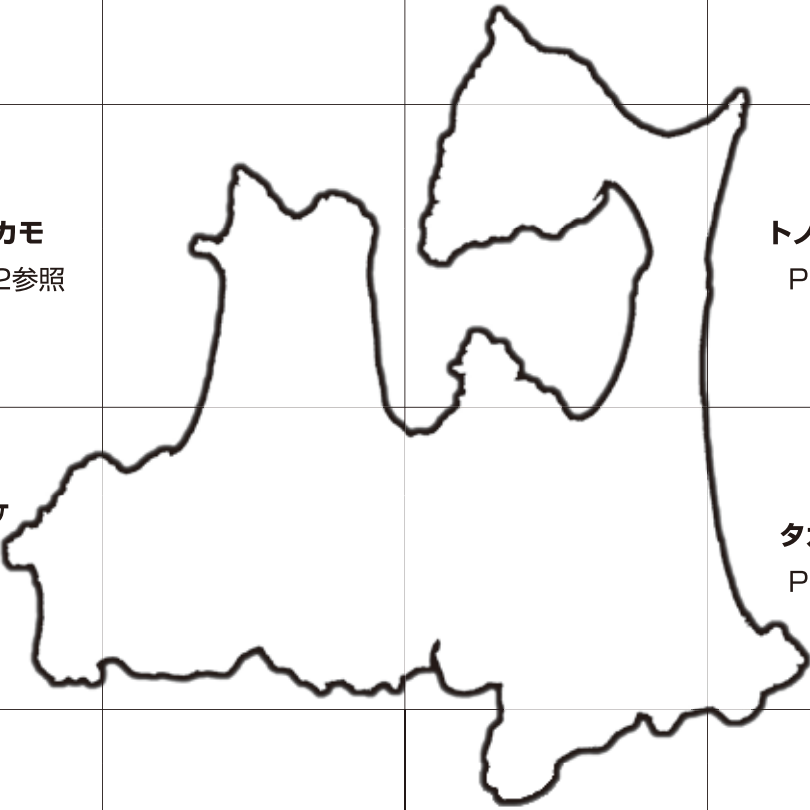
—青森県レッドデータブック（2020年版）—



2020年3月

青 森 県

■表紙写真説明

<p><b>コクガン</b> 口絵7、P.215参照</p>	<p><b>マリモ (ヒメマリモ型)</b> 口絵5、P.135参照</p>	<p><b>ヤマトオサガニ</b> 口絵12、P.364参照</p>	<p><b>ササオカゴケ</b> 口絵4、P.122参照</p>
<p><b>チトセバイカモ</b> 口絵2、P.42参照</p>			<p><b>トノサマガエル</b> P.232参照</p>
<p><b>オウラヒダイワタケ</b> 口絵5、 P.142参照</p>			<p><b>タカチホヘビ</b> P.227参照</p>
<p><b>ホンサナエ</b> 口絵9、P.257参照</p>	<p><b>ヤチヒロヒダタケ</b> 口絵5、P.151参照</p>	<p><b>キタノメダカ</b> 口絵8、P.240参照</p>	<p><b>コヤマコウモリ</b> 口絵6、P.179参照</p>

# 青森県の希少な野生生物

—青森県レッドデータブック（2020年版）—

2020年3月

青 森 県



## 発 刊 に あ た っ て



私たちが暮らす青森県は、世界自然遺産白神山地をはじめ、十和田八幡平及び三陸復興国立公園、下北半島及び津軽国定公園、ラムサール条約登録湿地「仏沼」など、四季の彩り美しい優れた自然環境に恵まれています。また、県内には希少価値の高い種や他地域では見られない特異な生態を有する野生生物が多種多様に生息・生育しています。これらの希少な野生生物を保護・保全し、かけがえのない自然を次世代へ引き継いでいくことは、現代を生きる私たちの大切な使命です。

このため、県では、県政運営の基本方針である「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」に基づき、野生動植物の生息・生育環境の保全や外来生物による生態系への影響の防止など、生物多様性を守るための取組を推進しているところです。

今年、2020年は、自然と共生する世界の実現をめざして、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された世界目標である「愛知目標」の目標年に当たります。希少な野生生物を含む生物多様性の保全を推進し、本県の豊かな自然を守り、しっかりと未来につないでいきたいと考えています。

本書は、本県の豊かな自然環境の状況を示す指標となる希少な野生生物の現状を把握し、種の希少性や保護の重要性などについての普及啓発を図るために取りまとめたものです。

本書により、多くの県民や関係者の皆様が、本県の希少野生生物についての認識を一層深め、本県の自然環境が将来にわたり保護・保全されていくことを願っています。

結びに、本書の作成に御協力いただいた「青森県レッドデータブック改訂検討会」の委員の方々をはじめ、調査、研究、執筆、編集等に携われた関係者の皆様、資料や写真の提供をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2020年3月

青森県知事 三 村 申 吾





維管束植物



イブリハナワラビ (A) P.22参照  
2016年, 三沢市, 須藤智道



アカハナワラビ (A) P.23参照  
2016年, 三沢市, 須藤智道



チャセンシダ (A) P.23参照  
2016年, 東通村, 須藤智道



ネムロコウホネ (A) P.24参照  
2018年, 十和田市, 須藤智道



クロミノコジマエンレイソウ (A) P.27参照  
2011年, つがる市, 木村啓



ヤチラン (A) P.32参照  
2018年, 十和田市, 須藤智道



クリイロスゲ (A) P.35参照  
2016年, 東通村, 須藤智道



アオバスゲ (A) P.36参照  
2018年, 五所川原市, 木村啓





イトナルコスゲ (A) P.37参照  
2017年, 東通村, 須藤智道



チャボイ (A) P.39参照  
2017年, 六ヶ所村, 須藤智道



エゾキケマン (A) P.41参照  
2017年, 東通村, 須藤智道



オキナグサ (A) P.42参照  
2017年, 八戸市, 須藤智道



チトセバイカモ (A) P.42参照  
2018年, 十和田市, 須藤智道



ベニバナヤマシャクヤク (A) P.43参照  
2017年, 階上町, 須藤智道



エゾノウワミズザクラ (A) P.44参照  
2002年, 五所川原市, 木村啓



ホロムイイチゴ (A) P.45参照  
1975年, 五所川原市, 木村啓





ホザキシモツケ (A) P.45参照  
2016年, 階上町, 須藤智道



クロビイタヤ (A) P.48参照  
2016年, 八戸市, 須藤智道



ミドリアカザ (A) P.51参照  
2018年, 八戸市, 須藤智道



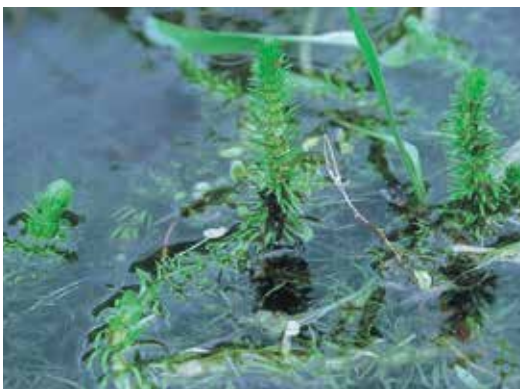
サクラソウ (A) P.52参照  
2016年, 八戸市, 須藤智道



ムラサキセンブリ (A) P.54参照  
2016年, 八戸市, 須藤智道



コカモメヅル (A) P.55参照  
2016年, 階上町, 須藤智道



スギナモ (A) P.56参照  
2018年, 青森市, 須藤智道



ヒナノウスツボ (A) P.57参照  
2016年, 八戸市, 須藤智道





ムシャリンドウ (A) P.58参照  
1999年, 深浦町, 木村啓



エゾノリュウキンカ (B) P.80参照  
2019年, 東通村, 須藤智道



アナマスミレ (B) P.87参照  
2008年, 深浦町, 木村啓



ハチノヘトウヒレン (B) P.99参照  
2018年, 八戸市, 須藤智道

蘚苔類



ハナビゼリ (B) P.100参照  
2016年, 八戸市, 須藤智道



ハッコウダゴケ (A) P.120参照  
2001年, 青森市, 太田正文



ササオカゴケ (B) P.122参照  
2017年, 青森市, 太田正文



コムチゴケ (B) P.124参照  
2013年, むつ市, 太田正文

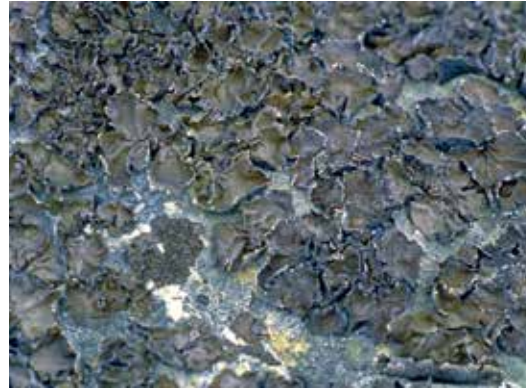


淡水藻類



マリモ (ヒメマリモ型) (A) P.135参照  
2008年, 三沢市小川原湖野口, 安藤一次

地衣類



オオウラヒダイワタケ (A) P.142参照  
1987年, 佐井村, 柿崎敬一

菌類



アカハナビラタケ (A) P.151参照  
2004年, 青森市月見野, 工藤伸一



タネサシヒメシロウラベニタケ (A) P.151参照  
1999年, 八戸市種差, 工藤伸一



ヤチヒロヒダタケ (A) P.151参照  
2001年, 青森市桑原, 工藤伸一



コカンバタケ (A) P.152参照  
2010年, 十和田市葛, 工藤伸一



ナガミノクロサラタケ (B) P.153参照  
2009年, 青森市田代平, 工藤伸一



クロムラサキハナビラタケ (B) P.154参照  
2013年, 十和田市葛, 工藤伸一





ナナイロヌメリタケ (B) P.155参照  
2004年, 十和田市増沢, 工藤伸一



ミヤマシメジ (B) P.155参照  
2007年, 十和田市増沢, 工藤伸一

哺乳類



ヤマドリタケ (B) P.156参照  
2003年, 青森市田代平, 工藤伸一



コヤマコウモリ (A) P.179参照  
2001年, 鱒ヶ沢町, 向山満



オコジョ (D) P.185参照  
2010年, 西目屋村, 飛鳥和弘



ニホンモモンガ (D) P.185参照  
1982年, 平内町, 山口典昭

鳥類



タンチョウ (Ex) P.193参照  
2012年, つがる市, 松原一男



シマクイナ (A) P.195参照  
2010年, 三沢市, 宮彰男





ケイマフリ (A) P.197参照  
2011年, 東通村, 宮彰男



イヌワシ (A) P.198参照  
2016年, 西目屋村, 飛鳥和弘



クマゲラ (A) P.199参照  
2008年, 白神山地, 山田兼博



オオセッカ (A) P.200参照  
2010年, 三沢市, 宮彰男



オジロワシ (A) P.197参照  
2012年, 東北町, 宮彰男



シノリガモ (B) P.201参照  
2004年, むつ市, 宮彰男



ハヤブサ (B) P.211参照  
2017年, 八戸市, 関下斉



コクガン (C) P.215参照  
2010年, 八戸市, 宮彰男

爬虫類



シロマダラ (D) P.227参照  
2008年, 弘前市久渡寺, 笹森耕二

両生類



ツチガエル (C) P.232参照  
2018年, 平内町, 笹森耕二

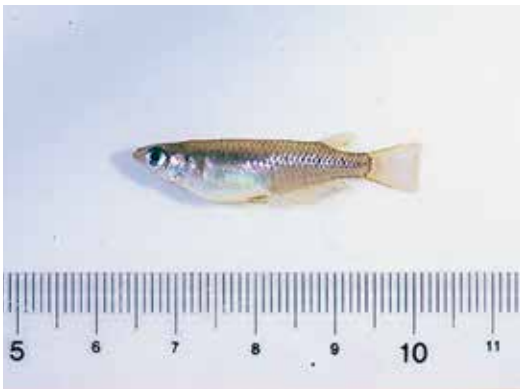
汽水・淡水魚類



シナイモツゴ (A) P.237参照  
2006年, 青森市, 五十嵐正俊



ハナカジカ (A) P.238参照  
2016年, 田子町, 佐原雄二



キタノメダカ (B) P.240参照  
1999年, 青森市, 佐原雄二



トミヨ属淡水型 (B) P.241参照  
2006年, 弘前市 (旧岩木町), 渡邊仁咲

昆虫類



カジカ大卵型 (C) P.243参照  
2007年, 弘前市, 佐原雄二



カトリヤンマ (Ex) P.252参照  
1963年, 弘前市, 奈良岡弘治





メガネサナエ (Ex) P.252参照  
1962年, 青森市浪岡, 奈良岡弘治



トラフトンボ (Ex) P.252参照  
2012年, 岩手県, 高橋克成



ムツアカネ (Ex) P.253参照  
2010年, 秋田県, 高橋克成



ヤマキチョウ (Ex) P.253参照  
1959年, 五戸町, 室谷洋司所蔵



オオルリシジミ (Ex) P.253参照  
1978年, 岩木山, 工藤忠



オオウラギンヒョウモン (Ex) P.254参照  
1985年, 田子町, 一戸清志



オオセスジイトンボ (A) P.256参照  
2008年, つがる市, 奈良岡弘治



ホンサナエ (A) P.257参照  
2008年, 東通村, 奈良岡弘治



ミツモンケンモン (A) P.261参照  
2005年, 五戸町, 室谷洋司



ウスバカマキリ (B) P.264参照  
2002年, 五所川原市 (旧市浦村), 市田忠夫



タイワンナガマキバサシガメ (B) P.264参照  
2002年, 六ヶ所村, 市田忠夫



イカリアオカメノコハムシ (B) P.269参照  
2014年, 八甲田山, 古木誠



ヒメギフチョウ (B) P.273参照  
2008年, 夏泊半島, 工藤誠也



スジボソヤマキチョウ (B) P.273参照  
2018年, 青森市, 室谷洋司



キタアカシジミ (B) P.274参照  
2008年, つがる市, 工藤忠



カバイロシジミ (B) P.274参照  
2006年, 今別町, 工藤誠也





オオゴマシジミ (B) P.274参照  
2007年, 七戸町, 工藤誠也



シラカミナガチビゴミムシ (C) P.285参照  
1993年, 深浦町白神岳, 山内智



オソレヤマミズギワゴミムシ (C) P.285参照  
1995年, むつ市恐山, 山内智



オオチャイロハナムグリ (C) P.292参照  
1998年, 十和田市八甲田山地, 山内智



チビヒサゴメツキ本州亜種 (C) P.293参照  
1992年, 弘前市岩木山, 山内智



ルイヨウマダラテントウ (C) P.294参照  
2016年, 十和田市葛, 山内智



モンスズメバチ (C) P.303参照  
1997年, 弘前市弥生, 山田雅輝



ニッポンハナダカバチ (C) P.303参照  
2004年, つがる市, 山内智



シモヤマギングチ (C) P.304参照  
1997年, 八甲田山, 山田雅輝



シロアシクサレダマバチ (C) P.305参照  
2007年, 弘前市岩木山, 山田雅輝

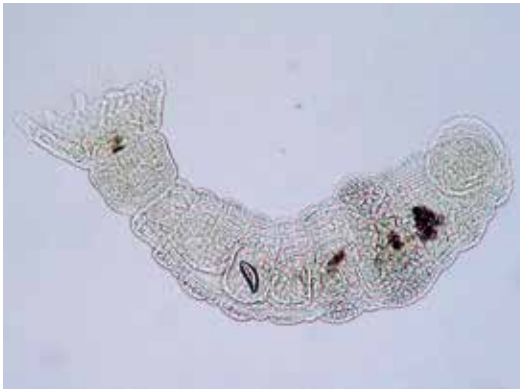
昆虫類以外の無脊椎動物



ホウザワイソギンチャク (B) P.357参照  
2010年, むつ市, 武田哲



ウミノナの殻上に着着するツボミガイ(B) P.357参照  
2010年, むつ市, 武田哲



イワキザリガニミズ (B) P.359参照  
2014年, 弘前市, 大高明史



ヌカエビ (C) P.364参照  
2001年, 深浦町, 大高明史



ヤマトオサガニ (C) P.364参照  
2010年, 平内町, 武田哲



ウミカニムシ (C) P.365参照  
2005年, むつ市芦崎, 三上春文

# 目次

表紙写真説明  
発刊にあたって  
口絵

## 1 総論

(1) 青森県レッドデータブック（2020年版）作成の経緯と目的	1
(2) 検討・執筆体制	2
(3) 青森県レッドデータブック（2020年版）カテゴリー定義	3
(4) 選定結果	4
(5) 凡 例	15

## 2 各論

(1) 青森県の野生生物の概要	17
(2) 植物	
1) 維管束植物	
①概説	19
②本文	20
③引用文献	117
2) 蘚苔類	
①概説	119
②本文	120
③引用文献	132
3) 淡水藻類	
①概説	134
②本文	135
③引用文献	140
4) 地衣類	
①概説	141
②本文	142
③引用文献	149
5) 菌類	
①概説	150
②本文	151
③引用文献	174
(3) 脊椎動物	
1) 哺乳類	
①概説	175
②本文	177
③引用文献	188

2) 鳥類	
①概説	192
②本文	193
③引用文献	225
3) 爬虫類	
①概説	226
②本文	227
③引用文献	228
4) 両生類	
①概説	229
②本文	231
③引用文献	233
5) 汽水・淡水魚類	
①概説	234
②本文	236
③引用文献	248
(4) 無脊椎動物	
1) 昆虫類	
①概説	250
②本文	252
③引用文献	335
2) 昆虫類以外の無脊椎動物	
①概説	354
②本文	355
③引用文献	371
(5) 青森県レッドデータブック（2010年改訂版）からの変更点一覧	
1) 植物	375
2) 脊椎動物	379
3) 無脊椎動物	381
(6) 青森県レッドデータブック（2010年改訂版）からの和名変更一覧	385
3 索引	
青森県レッドデータブック（2020年版）選定種一覧	387
あ と が き	397



# 1 総論



## (1) 青森県レッドデータブック(2020年版)作成の経緯と目的

県は、平成12年3月・本県に生息・生育する希少な種について取りまとめ、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック－」(以下、県RDBという。)として発刊し、続いて、県RDBを補完するため平成18年3月に「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック－維管束植物以外編－」(以下、県RDB維管束以外編という。),「青森県の希少な野生生物－青森県レッドリスト(2006年改訂増補版)－」(以下、県RLという。)を発刊し、平成22年3月には県RDBの改訂を行ない、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2010年改訂版)－」(以下、県RDB2010年版という。)を発刊しました。

県RDB2010年版では、916種の希少野生生物を選定しており、各種行政機関や教育・研究機関、県民への普及啓発等に活用されているところですが、現在の選定種及びカテゴリーについては、県RDB2010年版作成後に得られた新たな知見や生息・生育環境の変化等により、現況を必ずしも反映しておらず、見直す必要がありました。

そこで、県では、県内の野生生物の専門家を中心に構成された「青森県レッドデータブック改訂検討会」を平成28年4月に設置し、3分科会に分かれて現状の精査や現状に沿った形での再検討を行い、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2020年版)－」(以下、県RDB2020年版という。)として今般取りまとめました。

自然環境や生態系は、一度壊されてしまうと復元するのは非常に困難です。RDB、RLに選定されている希少野生生物は、県内にこれら良好な自然環境が保全されているかを判断する指標ともされるべき種であり、各種開発行為や採取・捕獲等においても事業主体や県民一人ひとりの配慮が必要であると考えます。

## (2) 検討・執筆体制

県内の野生生物の専門家により「青森県レッドデータブック改訂検討会」を組織し、調査及び選定・執筆作業を行いました。さらに、検討会委員以外の研究者及び専門家の方々にも情報収集や選定作業等について、御協力をいただきました。

### ○対象分野

維管束植物、蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類  
哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類  
昆虫類、昆虫類以外の無脊椎動物

### ○青森県レッドデータブック改訂検討会（敬称略）

#### 【会長】

佐原 雄二

#### 【植物分科会】

（維管束植物）	木村 啓、齋藤 信夫、須藤 智道
（蘚苔類、地衣類）	太田 正文
（淡水藻類）	原田 幸雄
（菌 類）	原田 幸雄、工藤 伸一

#### 【脊椎動物分科会】

（哺乳類）	峰下 耕、笹森 耕二
（鳥 類）	関下 斉
（爬虫類、両生類）	笹森 耕二
（汽水・淡水魚類）	佐原 雄二、大八木 昭

#### 【無脊椎動物分科会】

（昆虫類）	奈良岡 弘治、室谷 洋司、山内 智
（昆虫類以外の無脊椎動物）	大高 明史、大八木 昭、山内 智

### ○青森県レッドデータブック執筆協力者（五十音順、敬称略）

（淡水藻類）	安藤 一次、石戸谷 芳子
（哺乳類）	磯山 隆幸、岡田 あゆみ、和田 久
（昆虫類）	市田 忠夫、櫛田 俊明、工藤 周二、工藤 忠、今 純一、 佐藤 隆志、佐藤 博、須摩 靖彦、古木 誠
（昆虫類以外の無脊椎動物）	石田 幸子、鶴崎 展巨、武田 哲



### (3) 青森県レッドデータブック（2020年版）カテゴリー定義

カテゴリーについては、1) 環境省版レッドリストと比較が出来ること、2) よりわかりやすい表現であること等を踏まえ、「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック（2010年改訂版）－」と同じものを採用しました。

#### カテゴリー定義

区 分	基本概念	要 件	対応する 環境省カテゴリー
絶滅野生生物 EXランク	県内では、すでに絶滅したと考えられる野生生物	過去の記録・標本等において生息・生育が確認されているが、現在は県内で確認できない種	絶滅 EX 野生絶滅 EW
最重要希少野生生物 Aランク	県内では、絶滅の危機に瀕している野生生物	生息・生育数がきわめて少なく、または生息・生育環境も制限される種で、近い将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧ⅠA類 CR 絶滅危惧ⅠB類 EN
重要希少野生生物 Bランク	県内では、絶滅の危機が増大している野生生物	生息・生育数がかなり少なく、または、生息・生育環境もかなり限られた種で、将来県内での絶滅が危惧される種	絶滅危惧Ⅱ類 VU
希少野生生物 Cランク	県内では、生息・生育を存続する基盤が脆弱な野生生物	生息・生育数が少なく、生息・生育環境も限られた種で、現地点では直ちに絶滅危惧とする程ではないが、環境の変化によっては個体数の更なる減少が危惧され、県内での絶滅が心配される種	準絶滅危惧 NT
要調査野生生物 Dランク	県内では、生息・生育情報が不足している野生生物	限定された生息・生育環境や低生息密度などから注目される種であるが、県内での確認例がきわめて少なく、生息・生育実態等が不明なため評価が保留されている種	情報不足 DD
地域限定希少 野生生物 LPランク	県内では、地域内に孤立している個体群で、地域レベルでの絶滅のおそれが高い野生生物	生息・生育状況・学術的価値・生物地理学的観点から特に保護に留意すべき、地域個体群	絶滅のおそれのある 地域個体群 LP

#### (4) 選定結果

青森県の希少な野生生物として、今回のレッドデータブック見直しにより選定された種の内訳及び一覧は次のとおりです。

##### 選定種総括表

分類群 \ カテゴリー	E X	A	B	C	D	L P	合 計
植 物 合 計	6	138	139	114	89	3	489
維管束植物計	6	132	112	52	16	0	318
維管束植物以外計	0	6	27	62	73	3	171
蘚 苔 類	0	0	12	14	8	2	36
淡 水 藻 類	0	1	0	0	13	1	15
地 衣 類	0	1	3	8	15	0	27
菌 類	0	4	12	40	37	0	93
動 物 合 計	12	54	94	222	150	11	543
脊 椎 動 物 計	5	30	47	57	24	7	170
哺 乳 類	2	4	7	2	10	3	28
鳥 類	2	19	35	42	4	0	102
爬 虫 類	0	0	0	0	3	0	3
両 生 類	0	0	0	5	0	0	5
汽水・淡水魚類	1	7	5	8	7	4	32
無脊椎動物計	7	24	47	165	126	4	373
昆 虫 類	7	19	34	152	108	0	320
昆虫類以外の無脊椎動物	0	5	13	13	18	4	53

##### 選定種結果の推移

分類群 \ カテゴリー	E X	A	B	C	D	L P	合計
県レッドデータブック2020年版 (2020.3)	18	192	233	336	239	14	1,032
県レッドデータブック改訂版 (2010.3)	16	182	216	257	229	16	916
県レッドリスト改訂増補版 (2006.3)	16	161	205	237	253	16	888
県レッドデータブック (2000.3)	17	116	144	156	178	13	624

(注) 県RDB (2000.3) には、維管束植物以外 (蘚苔類、淡水藻類、地衣類、菌類) は含まれていません。

選定種一覧（網掛けは青森県レッドデータブック（2010年改訂版）後の新規追加）

植物	クシロチドリ	チチッパベンケイソウ
【維管束植物】	フガクスズムシソウ	レブンイワレンゲ
《EX》	ヤチラン	アズマツメクサ
トウゴクヘラオモダカ	サカネラン	ミヤマダイコンソウ
タチガヤツリ	タカネトンボ	エゾノウワミズザクラ
カンエンガヤツリ	イヌマムカゴ	ホロムイイチゴ
ヤナギタウコギ	ヒオウギ	エゾシモツケ
ヒメヒゴタイ	シロウマアサツキ	ホザキシモツケ
ハナヒョウタンボク	カラフトホシクサ	スズメウリ
《A》	ミクリゼキショウ	キバナノコマノツメ
スギラン	タルマイスゲ	エイザンスミレ
チシマヒカゲノカズラ	ジョウロウスゲ	マツバニンジン
イブリハナワラビ	クリイロスゲ	ケゴンアカバナ
アカハナワラビ	オクタマツリスゲ	アシボソアカバナ
キジノオシダ	アオバスゲ	ヒメアカバナ
チャセンシダ	クジュウツリスゲ	クロビイタヤ
ネムロコウホネ	ハタベスゲ	タカネグンバイ
ヒンジモ	イトナルコスゲ	ヤナギヌカボ
トチカガミ	ホソバオゼヌマスゲ	コガネギシギシ
イトトリゲモ	クグスゲ	クシロワチガイソウ
ホソバノシバナ	ウシオスゲ	チシマツメクサ
ガシャモク	イッポンスゲ	エンピセンノウ
ツツイトモ	マシケスゲモドキ	イトハコベ
ササエビモ	ヒメウシオスゲ	エゾハコベ
カワツルモ	チシママツバイ	ミドリアカザ
ウラゲキヌガサソウ	チャボイ	エゾハナシノブ
クロミノコジマエンレイソウ	スジヌマハリイ	サクラソウ
ヒメユリ	ヒメワタスゲ	チシマツガザクラ
フジチドリ	ザラツキヒナガリヤス	エゾノツガザクラ
ミスズラン	エゾカモジグサ	カラフトイチャクソウ
サルメンエビネ	オオトボシガラ	キバナシャクナゲ
ヒメホテイラン	タチイチゴツナギ	バйкаツツジ
モイワラン	エゾキケマン	ムラサキセンブリ
トケンラン	オサバグサ	アイナエ
アツモリソウ	オキナグサ	バシクルモン
ベニシュスラン	シコタンキンポウゲ	コカモメヅル
ヒロハツリシュスラン	チトセバイカモ	ムラサキ
ヒメミズトンボ	ベニバナヤマシャクヤク	ツルカメバソウ

マルバノサウトウガラシ  
スギナモ  
キクモ  
ヒシモドキ  
クワガタソウ  
ヒナノウスツボ  
カイジンドウ  
ルリハッカ  
ムシャリンドウ  
ヒメハッカ  
エゾナミキソウ  
イヌニガクサ  
ミミカキグサ  
フサタヌキモ  
オオタヌキモ  
ヤチコタヌキモ  
モイワシャジン  
バアソブ  
ヒメガンクビソウ  
ムカシヨモギ  
アキノハハコグサ  
ナガバキタアザミ  
エゾトウヒレン  
ハゴロモニワトコ  
エゾヒョウタンボク  
ケヨノミ  
ベニバナヒョウタンボク  
マツムシソウ

《B》

デンジソウ  
サンショウモ  
リシリシノブ  
イチョウシダ  
オオエゾデンダ  
ネズミサシ  
ハンゲショウ  
ヒメカイウ  
マルバオモダカ  
アギナシ  
イトイバラモ

コアマモ  
イトモ  
コバノヒルムシロ  
リュウノヒゲモ  
イトクズモ  
ホソバノアマナ  
コアニチドリ  
キンセイラン  
ナツエビネ  
ユウシュンラン  
キンラン  
クゲヌマラン  
コアツモリソウ  
クマガイソウ  
サワラン  
ハマカキラン  
ミズトンボ  
ガツサンチドリ  
トキソウ  
ウチョウラン  
カキツバタ  
エゾミクリ  
ヤマトミクリ  
タマミクリ  
ヒメミクリ  
ネムロホシクサ  
エゾホシクサ  
ネムロスゲ  
ホロムイクグ  
オオクグ  
ヌイオスゲ  
タカネクロスゲ  
ナンブソウ  
トガクシソウ  
オオレイジンソウ  
センウズモドキ  
アズマレイジンソウ  
ミチノクフクジュソウ  
フクジュソウ  
エゾノリュウキンカ

ハンショウヅル  
コキツネノボタン  
イワカラマツ  
ノカラマツ  
ヤマシャクヤク  
シコタンソウ  
ツガルミセバヤ  
フジカンゾウ  
シロバナノヘビイチゴ  
カラフトダイコンソウ  
ミチノクナシ  
オオタカネバラ  
ホザキナナカマド  
クロツリバナ  
マルミノウルシ  
ヤマアイ  
イイギリ  
オオバタチツボスマレ  
アナマスミレ  
アイヌタチツボスマレ  
タチフウロ  
ホソバアカバナ  
エゾイヌナズナ  
ミヤマツチトリモチ  
ヌカボタデ  
アオモリマンテマ  
ミチノクコザクラ  
ユキワリコザクラ  
ユキワリソウ  
オオサクラソウ  
ヒナザクラ  
ナガバツガザクラ  
フタバムグラ  
ホソバツルリンドウ  
チョウジソウ  
スズサイコ  
ヒヨドリジョウゴ  
エチゴトラノオ  
シラガミクワガタ  
キセワタ

ヤマジソ  
ミヤマウツボグサ  
デワノタツナミソウ  
オニシオガマ  
タヌキモ  
ヒメタヌキモ  
ムラサキミミカキグサ  
キキョウ  
アサザ  
オニオトコヨモギ  
アサギリソウ  
クモマニガナ  
タカサゴソウ  
ウスユキソウ  
ムツトウヒレン  
ハチノヘトウヒレン  
リンネソウ  
ウコンウツギ  
カノコソウ  
ツルカノコソウ  
ハナビゼリ

《C》

ヒメミズニラ  
ミズニラ  
イワヒバ  
コウライイヌワラビ  
ミチノクサイシン  
シバナ  
エビネ  
ハクウンラン  
ノカンゾウ  
ミクリ  
ナガエミクリ  
セキショウイ  
エゾサワスゲ  
ミチノクホタルイ  
ヒメキンポウゲ  
オオウマノアシガタ  
ヤシャビシャク  
コモチレンゲ

ハコダテキリンソウ  
タコノアシ  
タチモ  
ヒロハノカワラサイコ  
ツルキジムシロ  
コガネイチゴ  
ノウルシ  
シナノタイゲキ  
アリアケスミレ  
イソスミレ  
ゲンジスミレ  
エゾオトギリ  
チシマフウロ

ハクサンハタザオ  
オオユリワサビ  
ノダイオウ  
タチハコベ  
アオモリミミナグサ  
ナガバツメクサ  
ハイハマボッサ  
オオウメガサソウ  
フナバラソウ  
タチガシワ  
オオマルバノホロシ  
ピロードトラノオ  
テイネニガクサ  
ハマゴウ

ハマウツボ  
イヌタヌキモ  
ホロマンノコギリソウ  
オオバヨモギ  
ミチノクヤマタバコ  
オオニガナ  
ハクサンサイコ

《D》

マルミスブタ  
ヒロハトリゲモ  
オオトリゲモ  
スゲアマモ  
タチアマモ

ネジリカワツルモ  
シラオイエンレイソウ  
オオミズトンボ  
シテンクモキリ  
ミズアオイ  
アカミノルイヨウショウマ

ザリコミ

ミズキカシグサ  
ヤマホロシ  
タカサブロウ  
コオニタビラコ

【蕨苔類】

《A》

ハッコウダゴケ

《B》

オオミズゴケ  
クロカワゴケ  
カワゴケ  
ササオカゴケ  
マツカリタケナガゴケ  
トガリカイガラゴケ

コマチゴケ

イチョウウキゴケ

ニセヤハズゴケ

シフネルゴケ

コムチゴケ

《C》

アオゴケ  
マユハケゴケ  
ヒロスジツリバリゴケ  
シロシラガゴケ  
ホソバゴケ

カサゴケモドキ

カサゴケ

オオヒモゴケ

コシノヤバネゴケ

ササバゴケ

ヤリノホゴケ

モミシノブゴケ

ナガスジハリゴケ

ホソバツヤゴケ  
ミヤマミズゼニゴケ

《D》

ホソベリミズゴケ  
シマオバナゴケ  
オオサナダゴケ  
ウキウキゴケ  
オソレヤマヤバネゴケ  
ケスジャバネゴケ

トワダツボミゴケ

マルバツボミゴケ

《LP》

コロンピアミズゼニゴケ

【淡水藻類】

《A》

マリモ

(ヒメマリモ型、フジマリモ型を含む)

《D》

ケナガシャジクモ  
シャジクモ  
カタシャジクモ  
ハダシシャジクモ  
ヒメフラスコモ

オトメフラスコモ

イシカワモズク

カワモズク

アオカワモズク

ユタカカワモズク

ホソカワモズク

チャイロカワモズク

オオイシソウ

《LP》

ウイトロキエラサリナ

【地衣類】

《A》

オオウラヒダイワタケ

《B》

オオイワブスマ

シワイワタケ

イワタケ

《C》

マキバエイランタイ

ミヤマクグラ

バンダイキノリ

オオサビイボゴケ

コウヤクゴケ

チヂレウラミゴケ

ヘリトリツメゴケ

ヤスデゴケモドキ

《D》

ウチキウメノキゴケ

シナノウメノキゴケ

ニセカラタチゴケ

ツツレカラタチゴケモドキ

フォーリザクロゴケ

チャザクロゴケ

キゴケ

ヤマトキゴケ

ムクムクキゴケモドキ

ニセチャハシゴケ

アカツメゴケ

モクスゴケ

カワホリゴケ

ヤマトカワホリゴケ

アオキノリ

【菌類】

《A》

アカハナビラタケ

タネサシヒメシロウラベニタケ

ヤチヒロヒダタケ

コカンバタケ

《B》

チョレイマイタケ

フサハリタケ

ナガミノクロサラタケ

クロムラサキハナビラタケ

オオミノミミブサタケ

イボセイヨウショウロ

イマイオオボタンタケ

ナナイロヌメリタケ

ミヤマシメジ

ヤマドリタケ

ドクヤマドリ

カバノアナタケ

《C》

ツバキキンカクチャワンタケ

トガリフカアミガサタケ

オオズキンカブリ

スナヤマチャワンタケ

シロキツネノサカズキ

ミミブサタケ

キツネノサカズキ

カエンタケ

シワカラカサモドキ

コササクレシロオニタケ

ニカワウロコタケ

ウスムラサキガサ

ダイダイヌメリガサ

アケボノタケ

トガリワカクサタケ

シロタモギタケ

ホンシメジ

ヒメムラサキシメジ

オドタケ

キノボリツエタケ

ホシアンズタケ

ツバヒラタケ

キヌオオフクロタケ

ツノシメジ

バカマツタケ

アカジコウ

ムラサキヤマドリタケ

アカエノキンチャヤマイグチ

フサクギタケ

アイゾメイグチ

キヌメリイグチ

ヒメヌメリイグチ

ホウキタケ

ニクウスキノコブタケ

アカダマキノガサタケ



カンバタケ  
ツガノマンネンタケ  
ニオイカワキタケ  
ニンギョウタケ  
シロキクラゲ  
《D》  
クロカワ  
イモタケ  
テンガイカブリ  
クビナガクチキムシタケ  
トワダミドリクチキムシタケ  
トゲホコリタケ  
カブラテングタケ  
オニテングタケ  
オオモミタケ  
オオツガタケ  
カンゾウタケ  
クロキツネタケ  
カワリワカクサタケ  
ナガエノヤグラタケ  
ニセシジミタケ  
ヌメリツバタケ  
スギノタマバリタケ  
アラゲカワキタケ  
シモコシ  
マツタケ  
シロマツタケモドキ  
マツタケモドキ  
アシナガイグチ  
コゲチャヒロハアンズタケ  
ホンショウロ  
アミハナイグチ  
アクイロウスタケ  
ツヤナシマンネンタケ  
シロマイタケ  
ダイダイヒメアマミタケ  
カワキタケ  
タマチョレイタケ  
アカハツモドキ  
アカモミタケ

ウスベニオシロイタケ  
マツバハリタケ  
シシタケ  
脊椎動物  
【哺乳類】  
《EX》  
オオカミ  
カワウソ  
《A》  
クロホオヒゲコウモリ  
ノレンコウモリ  
モリアブラコウモリ  
コヤマコウモリ  
《B》  
フジホオヒゲコウモリ  
カグヤコウモリ  
ヤマコウモリ  
ヒナコウモリ  
ニホンウサギコウモリ  
ユビナガコウモリ  
テングコウモリ  
《C》  
コテングコウモリ  
ムササビ  
《D》  
イノシシ  
ニホンジカ  
ミズラモグラ  
カワネズミ  
オコジョ  
イズナ  
ニホンモモンガ  
クロオオアブラコウモリ  
ヒメヒナコウモリ  
チチブコウモリ  
《LP》  
ニホンザル（下北半島）  
ニホンザル（津軽半島）  
ツキノワグマ

【鳥類】  
《EX》  
トキ  
タンチョウ  
《A》  
ウズラ  
コシジロウミツバメ  
サンカノゴイ  
オオヨシゴイ  
ミゾゴイ  
シマクイナ  
ヒメクイナ  
ヒクイナ  
ヘラシギ  
コアジサシ  
ケイマフリ  
オジロワシ  
イヌワシ  
クマタカ  
コノハズク  
クマゲラ  
チゴモズ  
アカモズ  
オオセッカ  
《B》  
シノリガモ  
ヨシゴイ  
クロサギ  
クイナ  
ヨタカ  
ケリ  
イカルチドリ  
セイタカシギ  
ヤマシギ  
アオシギ  
オオジシギ  
ダイシャクシギ  
ホウロクシギ  
アカアシシギ  
サルハマシギ

キリアイ  
ツバメチドリ  
ミサゴ  
オオワシ  
チュウヒ  
ハイイロチュウヒ  
ツミ  
ハイタカ  
オオタカ  
サシバ  
ケアシノスリ  
オオコノハズク  
アオバズク  
アカショウビン  
ブッポウソウ  
ハヤブサ  
サンショウクイ  
サンコウチョウ  
コジュリン  
オオジュリン  
《C》  
ヤマドリ  
オオヒシクイ  
ヒシクイ  
ヨシガモ  
ハシビロガモ  
シマアジ  
トモエガモ  
コオリガモ  
カンムリカイツブリ  
アオバト  
マガン  
コクガン  
バン  
ジュウイチ  
タゲリ  
オグロシギ  
ソリハシシギ  
オバシギ  
コオバシギ

オジロトウネン  
ヒバリシギ  
ウズラシギ  
オカヨシガモ  
ハチクマ  
フクロウ  
トラフズク  
ヤマセミ  
アリスイ  
オオアカゲラ  
チョウゲンボウ  
コチョウゲンボウ  
チゴハヤブサ  
ホシガラス  
キバシリ  
マミジロ  
クロツグミ  
ビロードキンクロ  
コマドリ  
カヤクグリ  
セグロセキレイ  
ノジコ  
クロジ  
《D》  
ヒメウ  
セッカ  
シマアオジ  
イスカ  
《爬虫類》  
《D》  
タカチホヘビ  
ヒバカリ  
シロマダラ  
《両生類》  
《C》  
クロサンショウウオ  
トウホクサンショウウオ  
アカハライモリ  
ツチガエル  
トノサマガエル

【汽水・淡水魚類】  
《EX》  
イトウ  
《A》  
シナイモツゴ  
ヤリタナゴ  
タナゴ  
ギバチ  
ハナカジカ  
ニホンウナギ  
ニホンイトウ  
《B》  
スナヤツメ類  
キタノメダカ  
トミヨ属淡水型  
カジカ小卵型  
カジカ中卵型  
《C》  
カワヤツメ  
エゾウグイ  
シロウオ  
ヒモハゼ  
ジュズカケハゼ  
カンキョウカジカ  
カジカ大卵型  
エゾホトケドジョウ  
《D》  
キンブナ  
ジュウサンウグイ  
キタドジョウ  
アカオビシマハゼ  
チチブ  
カマキリ  
クルメサヨリ  
《LP》  
ニシン  
サクラマス  
アブラハヤ  
ウグイ

無脊椎動物

【昆虫類】

《EX》

カトリヤンマ  
メガネサナエ  
トラフトンボ  
ムツアカネ  
ヤマキチョウ  
オオルリシジミ  
オオウラギンヒョウモン

《A》

コバネアオイトンボ  
アオハダトンボ  
カラカネイトトンボ  
オオセスジイトトンボ  
ヤブヤンマ  
ヒメサナエ  
ホンサナエ  
ハネヒロエゾトンボ  
モリトンボ  
ハッチョウトンボ  
タガメ  
マルコガタノゲンゴロウ  
ナミルリモンハナバチ  
チャマダラセセリ  
ホシチャバネセセリ  
クロシジミ  
ツマジロウラジャノメ  
ミツモンケンモン  
ノシメコヤガ

《B》

キイトンボ  
ミヤマサナエ  
コシボソヤンマ  
コノシメトンボ  
マイコアカネ  
オオキトンボ  
ウスバカマキリ  
タイコウチ  
タイワンナガマキバサシガメ

キバネツノトンボ  
マークオサムシ本州亜種  
イワキメクラチビゴミムシ  
カワラハンミョウ  
ホソハンミョウ  
ヒメハンミョウ海浜型  
サロベツナガケシゲンゴロウ  
エゾヒラタヒメゲンゴロウ  
オオシマゲンゴロウ  
ゲンゴロウモドキ  
ホソガムシ  
クロスジカメノコハムシ  
イカリアオカメノコハムシ  
ウマノオバチ  
ヤマトルリジガバチ  
フタイロオオメハシリバエ  
ルリハダホソクロバ  
ベニモンマダラ道南亜種  
ギンイチモンジセセリ  
ヒメギフチョウ  
スジボソヤマキチョウ  
キタアカシジミ  
カバイロシジミ  
オオゴマシジミ  
クビグロケンモン

《C》

ルリイトトンボ  
モートンイトトンボ  
ハグロトンボ  
サラサヤンマ  
オナガサナエ  
ウチワヤンマ  
コヤマトンボ  
ハラビロトンボ  
オオシオカラトンボ  
ショウジョウトンボ  
ヒメアカネ  
カオジロトンボ  
オオゴキブリ  
ヤスマツトビナナフシ

ニトベツノゼミ  
コオイムシ  
ミズムシ  
エサキナガレカタヒロアメンボ  
ババアメンボ  
キタヒメアメンボ  
ヒメミズギワカメムシ  
モンキカスミカメ  
オオマキバサシガメ  
ツماغロマキバサシガメ  
ゴミアシナガサシガメ  
ヤセオオヒラタカメムシ  
ナミハンミョウ  
コハンミョウ  
セアカオサムシ  
ヒメクロオサムシ東北地方亜種  
アカガネオサムシ本州亜種  
ワタラセハンミョウモドキ  
イワキナガチビゴミムシ  
シラカミナガチビゴミムシ  
シラカミメクラチビゴミムシ  
オオワニメクラチビゴミムシ  
オソレヤマミズギワゴミムシ  
スナハラゴミムシ  
イグチケブカゴミムシ  
クマガイクロアオゴミムシ  
エチゴトツクリゴミムシ  
ヒゲブトコツブゲンゴロウ  
ヒメケシゲンゴロウ  
ケシゲンゴロウ  
ナガケシゲンゴロウ  
コウベツブゲンゴロウ  
ルイスツブゲンゴロウ  
キベリクロヒメゲンゴロウ  
シマゲンゴロウ  
マルガタゲンゴロウ  
クロゲンゴロウ  
ゲンゴロウ  
エゾゲンゴロウモドキ  
オオミズスマシ

ミススマシ  
ヒメミススマシ  
ガムシ  
エゾコガムシ  
ツガルホソシテムシ  
オオクワガタ  
ダイコクコガネ  
ミヤマダイコクコガネ  
オオチャイロハナムグリ  
キベリマルヒサゴコメツキ本州亜種  
シモヤマミヤマヒサゴコメツキ  
チビヒサゴコメツキ本州亜種  
ミチノクシモフリコメツキ  
エゾクロツヤミズギワコメツキ本州亜種  
ゲンジボタル  
ルイヨウマダラテントウ  
ホクチチビハナカマキリ  
ヒゲブトハナカミキリ  
ヤマトキモンハナカミキリ  
イガブチヒゲハナカミキリ  
オオハナカミキリ  
コウヤホソハナカミキリ  
オニホソコバネカミキリ  
ヒゲシロホソコバネカミキリ  
ヨコヤマヒメカミキリ  
ツシマアメイロカミキリ本土亜種  
ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ  
オダヒゲナガコバネカミキリ  
ムモンベニカミキリ  
ハセガワトラカミキリ  
トウホクトラカミキリ  
ヒトオビチビカミキリ  
ケマダラカミキリ本州亜種  
アカガネカミキリ本州亜種  
ヒメヒロウドカミキリ  
ヨコヤマヒゲナガカミキリ  
シロオビドイカミキリ  
トホシカミキリ  
ヤツボシカミキリ  
オオヨモギハムシ

キアシネクイハムシ  
オオルリハムシ  
キイロカメノコハムシ  
ベニカメノコハムシ  
スジキイロカメノコハムシ  
オナガアシプトコバチ  
エゾアカヤマアリ  
モンズズメバチ  
ニッポンハナダカバチ  
シモヤマギングチ  
ササキリギングチ  
ニトベギングチ  
エチゼンヒメハナバチ  
シロアシクサレダマバチ  
トワダオオカ  
ヤホシホソマダラ  
ミチノクスカシバ  
ソトシロスジミズメイガ  
ムナカタミズメイガ  
アオバセセリ  
スジグロチャバネセセリ  
オオチャバネセセリ  
ミヤマチャバネセセリ  
ヒメシロチョウ  
ウラナミアカシジミ  
ウラジロミドリシジミ  
ハヤシミドリシジミ  
ミヤマカラスシジミ  
ゴマシジミ  
ヒメシジミ  
テングチョウ  
ヒョウモンチョウ  
ウラギンスジヒョウモン  
オオミスジ  
ホシミスジ  
オオムラサキ  
ヒカゲチョウ  
クロフカバシャク  
フチグロトゲエダシャク  
チャホシホソバナミシャク

エゾヤエナミシャク  
シロマダラカバナミシャク  
オナガミズアオ  
シロホソバ  
ミカボコブガ  
カギモンハナオイアツバ  
ヨスジカバイロアツバ  
ミヤマキシタバ  
ヒメシロシタバ  
マガリスジコヤガ  
ウスジロケンモン  
オオチャバネヨトウ  
キスジウスキヨトウ  
ガマヨトウ  
ウスミモンキリガ  
ミスジキリガ  
オイワケクロヨトウ  
ダイセツヤガ  
《D》  
エビガラトビムシ  
エサキウミトビムシ  
キボシアオイボトビムシ  
コシダカマルトビムシ  
ミツワマルトビムシ  
エゾエンマコオロギ  
カヤコオロギ  
トゲヒシバツタ  
セグロバツタ  
ショウリョウバツタモドキ  
カワラバツタ  
ガロアムシ  
ミゾナシミズムシ  
ハマベナガカメムシ  
シロヘリツチカメムシ  
ウスバセンブリ  
オオヒョウタンゴミムシ  
ミツメナガチビゴミムシ  
シモキタメクラチビゴミムシ  
フトクチヒゲヒラタゴミムシ  
オオトックリゴミムシ

ニセモンキマメゲンゴロウ  
アカマダラハナムグリ  
ハヤチネベニコメツキ  
ババアカコメツキ  
トワダアカコメツキ  
ツガルアカコメツキ  
カタアカチビオオキノコ  
ババヒメテントウ  
ムナグロチャイロテントウ  
アカガネネクイハムシ  
キンイロネクイハムシ  
オオナギナタハバチ  
オキナワシリアゲコバチ  
オオセイボウ  
ミヤマツヤセイボウ  
ツノアカヤマアリ  
テラニシクサアリ  
ミヤマアメイロケアリ  
イワタツツクモバチ  
フタモンクモバチ  
オオハムシドロバチ  
ミカドジガバチ  
ハクトウアワフキバチ  
ガロアギングチ  
キュビギングチ  
アギトギングチ  
キスケギングチ  
コシジロギングチ  
ヤマトコトガタバチ  
コウノスジガバチモドキ  
シモヤマジガバチモドキ  
エゾアリマキバチ  
マエダテツチスガリ  
ヤスマツコンボウハナバチ  
シロスジフデアシハナバチ  
クズハキリバチ  
カグヤキマダラハナバチ  
オカモトキマダラハナバチ  
ニセハイイロマルハナバチ  
ハイイロヒゲナガハナバチ

カエルキンバエ  
ハイイロボクトウ  
ヒメキテンシロツトガ  
モリオカツトガ  
マンレイカギバ  
ナガトガリバ  
ヒメウラベニエダシャク  
ヨツモンマエジロアオシャク  
シラナミナミシャク  
ギフウスキナミシャク  
キジマソトグロナミシャク  
トビスジトガリナミシャク  
ホソスジハイイロナミシャク  
カバシャク  
コウチスズメ  
スキバホウジャク  
イブクスズメ  
ヒメスズメ  
ミスジビロードスズメ  
ヘリスジシャチホコ  
アマギシャチホコ  
スゲドクガ  
キタオオコブガ  
ウゴウンモンツマキリアツバ  
ハスオビアツバ  
カサイヌマアツバ  
フシキシタバ  
アルプスギンウワバ  
オオモリケンモン  
タテスジケンモン  
ウスハイイロケンモン  
ネジロシマケンモン  
ハマセダカモクメ  
ギンモンセダカモクメ  
ヘリボシキノコヨトウ  
ヌマベウスキヨトウ  
ヒメシロテンアオヨトウ  
セプトモクメヨトウ  
ウスクモヨトウ  
シロミミチビヨトウ

ヨコスジヨトウ  
ウスキモンヨトウ  
ホソバウスキヨトウ  
エゾスジヨトウ  
ハイイロヨトウ  
シロオビヨトウ  
オオシラホシヤガ

【昆虫類以外の無脊椎動物】

《A》

エゾマイマイ  
コガタカワシンジュガイ  
タカホコシラトリ  
ツガルザリガニミミズ  
キタホウネンエビ

《B》

ホウザワイソギンチャク  
ツボミガイ  
クビキレガイモドキ  
トクナガヤドリニナ  
オカマメタニシ  
ハマグリ  
アオモリザリガニミミズ  
イワキザリガニミミズ  
ニホンザリガニ  
コメツキガニ  
アシハラガニ  
イソコモリグモ  
ミスグモ

《C》

トウホクコガタウズムシ  
キタシロウズムシ  
ハコダテヤマキサゴ  
エゾコギセル  
ミチノクマイマイ  
カワシンジュガイ  
スジホシムシ  
スジホシムシモドキ  
ヌカエビ  
サワガニ  
ヤマトオサガニ



ウミカニムシ

ミサキギボシムシ

《D》

エゾマメタニシ

ミズシタダミ

ニホンミズシタダミ

エゾミズゴマツボ

コシタカヒメモノアラガイ

ヒダリマキモノアラガイ

カワネジガイ

ミズコハクガイ

ナガナタネガイ

ナタネキバサナギガイ

エゾドブシジミ

アリアケモドキ

キタクダヒゲガニ

オオナガザトウムシ

ヒトハリザトウムシ

フタコブザトウムシ

アユミコケムシ

ウチワイカリナマコ

《LP》

シモキタシブキツボ

ナンブマイマイ

ササミケマイマイ

トウホクスベザトウムシ

## (5) 凡例

### 1) 構成

分野ごとに概説、各選定種を解説した本文、引用文献で構成されています。

また、平成22年（2010年）に発刊した青森県レッドリストと比較して、新規追加した種及び変更があった種については、2（5）にある変更点一覧に簡潔にその理由を掲載するとともに、新規追加された種については、1（4）及び3にある選定種一覧にも網掛けで表示しました。なお、本文中の敬称は省略しました。

### 2) 本文の項目

対象野生生物名 : 科名・和名・学名を記述した。

カテゴリー : 青森県カテゴリー及び環境省カテゴリーを記載した。

なお、環境省のカテゴリーについては、「環境省レッドリスト2018」（平成30年公表）に該当になるものを記述した。

形態的特徴 : 選定種の形態の特徴について記述した。

選定の理由 : 対象種として選定した理由について記述した。

分布と生態の概要 : 分布と生態について概要を記述した。

生存に対する脅威と保存対策 : 想定される圧迫要因と保存対策について記述した。

特記事項 : 上記以外で特に記載すべき点について記述した。

執筆者名 : 執筆者名を記載した。

なお、情報量が少ない等の理由により、記述が不可能なものについては項目を省略したのがあります。

### 3) 写真

口絵に使用した写真は、撮影場所及び採取場所、撮影年並びに撮影者について記しています。

